

幕末の志士 梅田雲浜

梅田雲浜先生は、1815年（文化12年）に、小浜の武士の家にお生まれになりました。先生は、7歳で小浜の学問所である順造館じゆんぞうかんに入学されて、勉学と武芸に励まれました。

その後、京都と江戸でさらに学問に励まれ、全国の藩士はんしといっしょに勤皇きんのうと愛国あいこくの精神を学ばれました。27歳で今の滋賀県こなんじゆくに湖南塾という学問所を開かれ、29歳で京都の有名な学問所望楠軒ぼうなんけんの校長先生になられています。

当時江戸時代の日本は、徳川将軍の政治（幕府ばくふ）が、時代に合わないものとなり始めていました。また、外国の船がたくさん押し寄せるなどして、社会的にも不安が多い世の中でした。

先生は、このような世の中を変えるべく、「尊王攘夷そんのうじょうい」という、天皇をたてて、外国から日本を守るという考えを広めるために力をつくされましたが、この考えは将軍が中心となる幕府の政治に反するものでした。このため、小浜藩から家臣かしんの身分うばを奪われて、浪人ろうにんとなってしまいます。しかし、先生は自分が正しいと思った道を歩み、小浜藩の政治や、幕府のいろいろな問題に意見を言われています。また、日本全国でこの考えを広めようと努力されました。



残念ながら、先生の活動は幕府を倒そうとするものとみなされ、その中心人物とさ



れてしまい、捕らえられて江戸の牢屋ろうやに入れられてしま
います。牢屋では度重なる拷問たびかさを受けましたが、考えを
変えることなく、幕府の間違いを訴え続けられました。
がんばって拷問にたえた先生は、残念ながら45歳とい
う若さで牢獄死ろうごくされてしまいました。

先生の死後も政局は刻々と変化し、皆さんもよく知って
いる坂本龍馬さかもとりょうまなどの活躍により、徳川氏の幕府政治は
終わり、明治という新しい時代を迎えることになります。

これは明治維新めいじいしんといわれ、わたしたちの現在の生活の基礎きそを創った時代です。

貧困にも負けず、日本の国の発展を願い一生を捧げた郷土の偉人・梅田雲浜先生。
その強い意志と精神力を私たちは尊敬するとともに、先生が小浜出身であることを、
誇りほこりに思わなければなりません。

歴史キーワード

江戸時代……………1603年に徳川家康とくがわいえやすが江戸（東京）に幕府を開いたことに始まります。

小浜は若狭国の中心として栄え、今の城内地区に小浜城がありました。

順造館じゆん そう かん……………小浜藩の学問所として1774年に開校しました。順造館じゆんそうかんの正門が現在
若狭高校の正門となっています。

望楠軒ぼう なん けん……………京都にあった全国的に有名な私塾で、崎門学きもんがくという学問を教えていました。
崎門学は国や家族の道徳を教えた学問です。

尊王攘夷そんのうじょうい……………日本古来の天皇の権威けんいを認め、外国の影響はいじょを排除する考え。

安政の大獄あんせい たいごく……………幕府大老の井伊直弼い い なおすけが、尊王の志士そんのう ししを罰した事件。梅田雲浜のほかに

吉田松陰よしたしょういん・橋本左内はしもとさないなどが投獄とうごく、処刑されました。